



山形県議会議員

菊池大二郎 県政報告

発行号/第7号
発行日/令和4年1月
発行者/菊池大二郎事務所
住所/村山市駅西17-4
TEL/0237-52-5622
FAX/0237-55-7877

【特集】令和3年度12月定例会 一般質問

1 自然を大切にすることに経済的な価値が生まれる？ 産業構造の大きな転換期……では、どうする？

【問】山形県は、国に先駆けて2050年までに温室効果ガス排出の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンやまがた2050」を宣言。私が特に懸念しているのは、本県製造業への影響である。例えば、本県には、自動車の部品を製造する多くの企業があるが、従来から必要とされたエンジン等の部品が電動化により不要となれば、出荷額は大きく減少し雇用にも影響する。本県の自動車関連産業が電動化への転換に乗り遅れないようにするための対策は？

【答】①県内企業の取組状況等の分析、②電動化の市場動向等に関する情報提供、③技術・製品開発等に関する支援、④発注企業の開拓と県内企業との取引マッチング等が必要であり、自動車メーカーとの豊富な人脈を有する名古屋事務所、製品化などを支援する工業技術センター、取引支援などを行う県企業振興公社等が連携して、企業レベルや電動化への取組状況等にに応じた支援を総合的に行っていく。

2 これからは山がさらに価値を生み出す？ 災害対策としても県営林の整備がとてども大切。

【問】大久保県営林において、対象面積の一部、約5ヘクタールの間伐事業が実施された。地域の森林資源の循環利用を進めることは大変重要であり、自然災害、脱炭素社会、有害鳥獣被害対策にとっても山林の整備は不可欠。さらに、昨今のウッドショックによる木材価格の高騰を踏まえれば、この機に乗じて県営林の整備を加速させていくべきでは？

【答】全県で70か所・3,289haの県営林があり、うち県有林が3か所・370haで全体の約11%、民有林の分取契約によるものが67か所・2,919haと全体の89%を占める状況。高精度の森林情報を取得するため率先して取り組んでいる航空レーザ測量は、コスト削減と収益性の向上に大きな効果が得られることが判明しており、来年度からは、市町村と協調した広域での実施に向け予算要求を行っている。今後、必要に応じた県営林の適切な契約期間の延長を図りながら、模範的な森林経営を実践して県内の民有林に波及させ、森林ノミクスの推進につなげていきたい。

3 防災重点農業用ため池、村山市は県内最多の35か所！

【問】記憶にも新しい平成30年7月豪雨において、西日本を中心に32箇所のため池が決壊。人的被害も発生し、決壊したため池のうち29箇所は防災重点ため池選定外であった。そこで、防災重点ため池選定の考え方が見直され、本県では、農業用ため池総数1,093か所のうち、新たに防災重点農業用ため池として選定された数は、従来の91箇所から370箇所に増加。市町村別でみると村山市が最多の35箇所であった。県は、今年3月に県防災重点農業用ため池に係る防災工事等推進計画を策定し調査・評価を行っているが、とりわけ優先度が高いと思われるため池を県としてどの程度把握し対策を実施していくのか？また、統廃合も含め整備計画を全体としてどう進めていくのか？

【答】住民参加型によるハザードマップの作成を本年度中に全てのため池で完了する見込み。また、①現在農業用水として活用されていない27か所については早急に廃止工事を実施。②残る343か所のうち、比較的規模が大きく決壊による被害が大きいと想定され、最優先で取り組むべきため池が82か所あるが、このうち25か所については既に整備が完了、22か所が現在整備中。残35か所については、着手の前提となる地域関係者の同意確認等を進め、年度内にハード整備計画を策定し早期の着手を目指す。③上記82か所以外についても、調査結果等を踏まえ早期のハード整備を進めていく。

4 県内の高校における学習に困難さのある生徒への支援体制強化を！

【問】それぞれの生徒に必要な合理的配慮を十分に検討し、対応していく必要があり、先生方が知識やノウハウを備えていくこと、そして、学校においても合理的配慮を円滑に行えるような体制づくりが重要であると考えますがどうか？

【答】現在、県教育委員会ではモデル校を指定し、生徒への指導や支援について研究を進めており、その成果を今後広く共有することで、高校の教職員の理解をより一層深め、専門性の向上を図っていきたい。



県内高校での現地調査

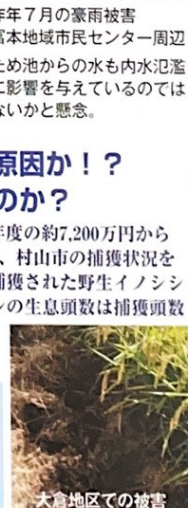
5 野生イノシシの捕獲減少……豚熱が原因か！？ 果たして、今、山で何が起きているのか？

【問】直近3か年のイノシシによる農産物被害額は、平成30年度の約7,200万円から約2,000万円増、稲の被害は約7,500万円にも及ぶ。ただ、村山市の捕獲状況を見るに、今年度の捕獲数が低い。県は11月下旬以降、発見・捕獲された野生イノシシが豚熱に感染していたと発表。とりわけ注視が必要なイノシシの生息頭数は捕獲頭数と比較してどのような状況か？また、第2期山形県イノシシ管理計画に基づく対策は？

【答】今年度の10月末現在のイノシシの捕獲頭数は、前年同期より450頭程度少ない約1,000頭。豚熱によるものか、今後、調査分析する。鳥獣対策の労力軽減を目的としたドローン等の試験的な活用も進め、令和7年度に元年度対比で被害金額を2割程度減少させることを管理目標とする。



昨年7月の豪雨被害
富本地域市民センター周辺
ため池からの水も内水氾濫
に影響を与えているのでは
ないかと懸念。



大倉地区での被害

6 コロナ禍で再認識した音楽などの素晴らしさ。芸術文化の薫る山形県を目指せ！

【提案】コロナ禍における芸術文化振興の意義及び県内における芸術文化活動の状況を総括し来年度以降にどう活かしていくかが問われている。音楽家をはじめとした現に芸術活動を担う人材への支援及び若手の育成強化の基盤形成に向けて、本県こそがそれを成し得る自治体であるという認識に立って推進していくべき（山形交響楽団創設者の村千秋氏や映画監督である村川透氏といった村山市出身の芸術家も紹介）。



当日は、悪天候のなか大変多くの皆様が傍聴に駆けつけてくださり、議場に華を添えていただきました。心より御礼申し上げますとともに、コロナ対策のため入場数に上限があり大々的なご案内を差し控えましたことに何卒ご理解賜ればと存じます。



【写真左】間伐が実施された大久保県営林
【写真右】伐採された丸太が並ぶ姿は圧巻。

7 首都圏一極集中は山形県内でも同じことがいえる。県の出先機関の機能強化が必要！

【問】例えば、有害鳥獣被害対策は広域的な行政課題に高まっている。だが、現場に一番近い県の出先機関にはその担当や窓口すらない。空き家対策についても同様。また、振興局（北庁舎）にはそもそも経済・産業部門がない。加えて、県議に当選する前から命題としてきたのが県立村山産業高校の通学路の安全確保であり、隣接する県道が非常に狭いため、平成26年度の再編以降、村山市が新たに市道のバイパス整備を実施する方針であるが、本市道整備の主たる目的は、県立の高校生の安全確保に他ならず、そうした行政課題に県と市が垣根を越えてしっかりと情報共有・連携して地域課題の解決に当たってほしい。現に、昨年度、同校からは「JR村山駅を移転してほしい」という要望すら県に提出されており、それだけ事態は切迫している。また、あまり知られていないが、山形空港敷地と国道13号線を隔てる塀に沿って約1.1キロにもわたり、平成13年度から韓国の国花であるムクゲが植栽されている。アフターコロナを見守った観光戦略において、山形空港には韓国の国花ムクゲがあるということも必ずや貴重な宣伝効果及び日韓友好につながるものと思えるし、予算確保も含めて持続的な対策を実施していくことが重要である。

村山市を中心とした北村山エリアは、高速道路の開通が着々と進み、交流拡大の新たなステージに移行している。コロナが落ち着き、村山市を玄関口として様々な地域との交流が拡大することを期待しているが、一方でストロー効果とも呼ばれるように、地域の魅力を一層高めていかなければ、むしろ大都市圏に活力を吸い取られかねない。今こそ、北村山エリアの魅力を高める努力を、地域住民・市町村・県が一致団結して積み重ねていく必要があり、そのためには、北村山で即決し実行につなげる県の支援組織体制が求められると考えるがどうか？

【答】総合支庁発足以来、ワンストップサービスの実現に向け、これまで900件以上に及ぶ事務や権限を本庁から委譲するとともに、数次にわたる組織体制の見直しを行いながら、市町村と一体となった地域課題解決に向けた総合調整や現場機能の発揮といった役割を果たしてきた。平成28年度には、それまでの村山総合支庁の西庁舎・北庁舎、並びに置賜総合支庁の西庁舎を地域振興局に改め、連携支援室を新設するとともに、業務統括者として地域振興局長を配置することにより、工事請負契約締結については地域振興局限りで決裁・執行できる金額を従来の1億円から3億円に引き上げた。これにより、災害対応をはじめとした現場統括機能を強化するとともに、体制の強化を図った。この見直しについては、現在、行財政改革プランに基づき、総務部において成果検証のため、現状の把握と課題の整理に取りかかっているが、今後、市町村をはじめ地域の御意見を丁寧に伺いながら、改善の必要性の検討や素案の作成を進め、プラン推進期間である令和6年度までには対応方針を出せるように取り組んでいきたい。



産業高校前の狭い県道



山形空港周辺のムクゲ

散水消雪施設の修繕状況はいかに

昨年、老朽化等により散水消雪機能が発揮されなかった以下4路線での改善を求めてきたところ、今年度における修繕状況等は次のとおりとなります。

① 楯岡五日町・十日町地内の主要地方道尾花沢関山線、及び

② 袖崎地内の一般県道東根尾花沢線

➤いずれもポンプの更新工事がすでに完了。

③ 楯岡北町地内の一般県道東根尾花沢線

➤井戸調査を実施したところ、水量が以前より減少、本来必要な水量を確保できないことが判明。今冬は消雪の稼働区間を見直し、一部は機械除雪に切り替え対応。引き続き、不足分の水量確保の検討を実施する。

※以前の県政報告でも指摘したが、当該路線の大旦川橋以南の側溝整備等をどう進めるのか、市・地元地区と急ぎ調整を図るよう県当局に要請している。

④ 一般県道大久保村山停車場線

➤道路幅員が大きく、機械除雪が可能と考えられるため、今冬は機械除雪に切り替えて対応する。



【写真上】袖崎地内 【写真下】大久保地内 いずれも昨年の状況。

昨年の7月豪雨による水害復旧、進む！

戸沢地区（大楯・楯下・長善寺）の樽石川水害復旧工事、計8か所のうち6か所がすでに完了、残りの2か所についても年内完了予定となります。農繁期を避けながらの着工となりましたが以前から地元関係者とも現地を確認してきた経緯もあり、関係各位に改めて感謝申し上げます。



【大楯】①② 【楯下】③④ 【長善寺】⑤⑥

活 動 報 告



国道347号線改良促進期成同盟会による県に対する要望活動



庄内浜釣りレクリエーションの取組みを現地調査



総務常任委員会の現地調査（建設中の県立新庄病院）



デジタル化推進会議委員として積極的に議論



地域議員協議会にて産地生産基盤パワーアップ補助事業等を質問



経済活性化・雇用対策特別委員会委員長として委員会運営及び現地視察を統括させていただく。関係各位に感謝。



村山本飯田IC～大石村山IC間の開通式及び祝賀セレモニー。当日は素晴らしい天候に恵まれた。



小国沢川周辺の状況について地元関係者らと現地調査